

「不易流行」

くよき伝統を守りながら(不易)

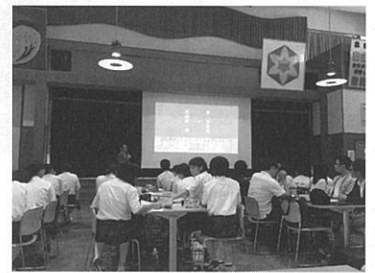
進歩に目を閉ざさない(と流行)によって、

「理想」を創造する

『子どもが主役になれる町』

秋晴れの空の下、江尾地区町民運動会が開催されました。15チームのうち総合力レーに参加できたのは6チームだけでした。小学生、中学生、10代から50代までの各世代を揃えることが難しくなっていることを感じました。そして、若い世代、子どもたちが大勢いる集落の元気の良さも目の当たりにしました。これからの町づくりを進めていく上で、移住定住や江府町に住み続けたいと思ってもらふ施策の重要性を改めて感じたところです。

さて、9月議会の合間をぬって福島県西会津町に出かけてきました。西会津町は福島県と新潟県の境にあり、人口約6300人、面積約300km²、高齢化率約45%と、規模は江府町の約2倍強ですが、同じような中山間地域にある町です。小学校、中学校、高等学校が1校ずつありま



▲西会津町中学校での取組の様子

す。訪問目的は中学校で実施されている「アントレプレナーシップ・スクール」を視察すること。そして、町や教育委員会、運営をされている団体と意見交換することでした。この事業は、「あれがない、これもない」という「ないもの探し」の思考から脱却し、資源の制約を乗り越え、新しい価値を作り出すことにこそ、新たな未来を切り拓くことができるという考え方や町の未来をつくるアイデアを出すための心構え・作法・動機づけを学び、資源・常識を超越してチャンスを追求することを中学生の頃から身につけることです。江府町では昨年度から中学生議会を始めました。西会津町で行われている手法をうまく取り入れて、江府町のことを考え、自分たちの手で未来をつくっていく。そんな活力のある子どもたちを育てていける環境づくりをしつかりと進めていきたいと思いま

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム報告

9月2日(土)、江府中学校多目的ホールで第2回3000人の楽しい町プロジェクトチーム公開会議を開催しました。今回のテーマは「意見や希望を具体的な形にしてみよう」です。

新庁舎建設に向けて、住民さんや職員から現実的な意見から大きな夢を描いたものまでたくさん意見をいただきました。こういった意見がそのまま言いつばなしにならないためにも、どうやったら実現できるのかをより具体的に話し合いました。例えば、今回参加されたあるグ



▲大きな模造紙にアイデアで書き出す参加者

ループは「食堂」を取り上げられました。住民さんと職員のどちらからも多くいただいた意見でした。ワークショップではこの「食堂」をどうやって実現していくのかアイデアを出しました。「誰が運営するの？食材はどこから調達するの？設備は？PR方法は？」など、自分たちが企画する立場になって細やかな部分まで話し合いました。

建物を作ることは簡単ですが、それをどうやって維持していくのが大切です。住民さんに継続して利用してもらえような仕組みを考えたり、運営側も住民主体でやっていければいいのではなど、深い議論が交わされました。

みんなが気軽に利用できるみんなの庁舎を考える。3000人の小さな町だからこそできることかもしれません。

今後はみなさんからいただいた意見をもとに12月に開催される江府町議会で経過を報告する予定です。みなさんの想いが一つでも多く反映され、だれもが利用しやすい庁舎になるように一緒に頑張っていきたいと思います。

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。